



新ごみ処理施設「エコパーク阿南」が完成 4月1日から本格運用



橘町小勝に建設を進めてきた新ごみ処理施設「エコパーク阿南」が完成し、3月28日に関係者約100人が出席して竣工式が行われました。敷地内には、ごみを集積して処理する工場棟のほか、見学や環境学習が行える管理啓発棟、市民が憩える芝生広場が整備されました。竣工式で岩浅市長は、「市民生活の向上と美しいまちづくりに大きく貢献するものと確信しています」とあいさつしました。玄関前で行われた記念セレモニーでは、福井小学校6年生による若竹元気太鼓が演奏され、関係者がテープカットやくす玉開披で完成を祝いました。事業費は93億3000万円で、4月1日から本格的に運用が始まっています。

「子ども・子育て会議」を設置 地域の実情に即した子育て支援策を検討



平成27年度から始まる新たな子育て支援制度の具体策などを検討する「阿南市子ども・子育て会議」の第1回会合が、3月26日に市役所で開かれ、保育所や幼稚園の代表者や公募委員など17人が意見交換しました。子ども・子育て支援法では、地域の多様なニーズをくみ取りながら、独自の計画設定、機動的な計画修正等を「子ども・子育て会議」で行うこととなっています。委員からは、「市民の生の声を計画に反映してほしい」や「子育てしやすいまちを全国に発信できる計画にしたい」といった意見が出されました。会議では、今後4回程度の会合を開き、平成26年度中に事業計画案（平成27年度～31年度）をまとめることとしています。

津波防災マップを全戸配布



南海トラフ巨大地震に備えて、家庭や地域での防災対策に役立ててもらおうと、最新の被害想定などを盛り込んだ津波防災マップ「南海トラフ巨大地震・津波にそなえて」を作成し、3月に市内全戸に配布しました。マップは、南海トラフ巨大地震と津波災害発生メカニズムなどを紹介した冊子と、津波被害が想定される10地区を表と裏に掲載したマップ5枚からなり、平成26年3月11日に徳島県が指定した津波災害警戒区域や基準水位、津波時の避難先を地区ごとに表示しているほか、想定される被害や地震への備えなどについての情報も掲載しています。このマップを活用して、家庭や地域で避難先の確認や備蓄などについて話し合ひましょう。

福井町に津波避難路と避難タワーが完成



新ごみ処理施設建設に関連する地域対策事業として、福井町湊地区に整備を進めていた「津波避難路」と、同町大西地区に建設していた「津波避難タワー」が完成し、3月29日に竣工式が行われました。湊地区に新設された津波避難路は延長146m、幅員3mのアスファルト舗装道で、標高約21mの地神社に通じています。また、大西地区の津波避難タワーは、鉄骨製で高さは8m。屋上部分には最大70人の収容が可能です。岩浅市長は「津波で1人の死者も出さない決意。避難路と避難タワーが津波から命を守るうえで大きな役割を果たしてくれると確信しています」とあいさつ。関係者とテープカットをして工事の完成を祝いました。

映画「アオギリにたくして」上映会 平和や命の尊さを語り継ぐ



広島で被爆体験を語り継いだ故沼田鈴子さんをモデルにした映画「アオギリにたくして」が3月30日、夢ホールで上映され、約600人が鑑賞しました。舞台あいさつでは、主人公の妹役（青春時代）として映画に出演した福井町出身の女優はらまいこさん（26歳）や、企画・製作の中村里美さんの4人が登壇し、製作時の小話などを紹介。この映画は、結婚式の3日前に広島で被爆し、何度も絶望のふちに立たされながら必死に生きた女性の人生が描かれています。上映後、余韻に浸っていた岡田宇宙さん（46歳・小松島市）は、「家族の絆や命の尊さについて改めて考えさせられました。はらさんの迫真の演技も素晴らしかった」と感動していました。

「阿波とくしま・商品券」発売始まる



消費税率引き上げによる景気対策として「阿波とくしま・商品券」が発行され、4月1日から阿南商工会議所、那賀川町商工会、羽ノ浦町商工会で販売されました。「額面1,000円の商品券を「全県共通券5枚」と「地域限定券6枚」の、合わせて11枚、11,000円分を10,000円で購入できるとあって、発売初日から大勢の方が商品券を買い求めていました。1時間ほど並んだという小川君子さん（70歳・黒津地町）は、「こうした支援はありがたい。生活用品の購入に充てようと考えています。増税は年金生活に響きますが、社会保障費をしっかりと充実してほしいです」と話していました。商品券の使用期間は、平成26年8月31日までです。

明谷梅林の管理等に役立てて 阿V協が「明谷焼」の売上金の一部を地元へ寄贈



明谷梅林の管理とまつりの保存活動に役立ててほしいと、阿南市ボランティア連絡協議会が、明谷梅林まつりで販売した「明谷焼」の売上金から経費を除いた121,074円を「梅の郷明谷梅林」に寄贈しました。明谷コミュニティセンターで行われた寄贈式には関係者約30人が出席し、同協議会会長の阿部和恵さんから奥田國夫代表（70歳・長生町）に目録が手渡されました。明谷焼は、明谷梅林でとれた梅を使ったたこ焼き風の創作料理で、まつり期間中に延べ8日間販売され、1,888パックを売り上げました。目録を受け取った奥田さんは、「皆さんの期待に応えられるよう、これからも梅林を守っていききたい」とお礼を述べました。

ITを活用した異業種交流 東京・阿南カラーニングゼミを開催



東京と阿南の若手企業家がインターネットのビデオ通話を利用して異業種交流を図る「第1回東京・阿南カラーニングゼミ」が開催されました。阿南光のまちステーションプラザでは、19人が講演やワークショップに参加。東京会場で熊崎友久さん（LED表示機メーカー経営）が、新規事業に乗り出す際に大切なのは自社の強みを知ることだと話し、その後、参加者同士で企業経営に関する情報を交換しあいました。近藤隆司さん（33歳・新野町）は、「距離に関係なくフレッシュな情報を得られて、とても有意義な時間でした」と話していました。※カラーニング (co-learning) とは、お互いに教えあい、学びあうといった意味です。